

# 次期教育振興基本計画の策定に向けた 検討状況について (ウェルビーイング関係)

我が国の教育をめぐる現状・課題・展望

教育の普遍的な使命：学制150年、教育基本法の理念・目的・目標（不易）の実現のための、社会や時代の変化への対応（流行）

【社会の現状や変化】

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大
- ・ロシアのウクライナ侵略による国際情勢の不安定化
- ・VUCAの時代（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）
- ・少子化・人口減少や高齢化
- ・グローバル化・地球規模課題
- ・DXの進展、AI・ロボット・グリーン（脱炭素）
- ・共生社会・社会的包摂
- ・精神的豊かさの重視（ウェルビーイング）
- ・18歳成年・こども基本法 等

▶ 教育振興基本計画は予測困難な時代における教育の方向性を示す**羅針盤**となるものであり、教育は社会を牽引する駆動力の中核を担う営み

第3期計画期間中の成果

- ・（初等中等教育）国際的に高い学力水準の維持、GIGAスクール構想、教職員定数改善
- ・（高等教育）教学マネジメントや質保証システムの確立、連携・統合のための体制整備
- ・（学校段階横断）教育費負担軽減による進学率向上、教育研究環境整備や耐震化 等

第3期計画期間中の課題

- ・コロナ禍でのグローバルな交流や体験活動の停滞
- ・不登校・いじめ重大事態等の増加
- ・学校の長時間勤務や教師不足
- ・地域の教育力の低下、家庭を取り巻く環境の変化
- ・高度専門人材の不足や労働生産性の低迷
- ・博士課程進学率の低さ 等

次期計画のコンセプト

2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成

- ・将来の予測が困難な時代において、未来に向けて**自らが社会の創り手**となり、課題解決などを通じて、**持続可能な社会**を維持・発展させていく
- ・社会課題の解決を、経済成長と結び付けて**イノベーション**につなげる取組や、一人一人の**生産性向上**に向けて、「**人への投資**」が必要
- ・**Society5.0**で活躍する、主体性、リーダーシップ、創造力、課題発見・解決力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成



日本社会に根差したウェルビーイング（※）の向上

- ・多様な個人それぞれの**幸せや生きがい**の実現に向けた教育
- ・幸福感、**学校や地域でのつながり**、**利他性**、**協働性**、**自己肯定感**、**自己実現**等の要素が含まれ、**協調的**幸福と**獲得的**幸福のバランスを重視
- ・**日本発の調和と協調**（Balance and Harmony）に基づく**ウェルビーイング**を発信

※身体的・精神的・社会的に良い状態にあること。短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

今後の教育政策に関する基本的な方針

グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成

- ・主体的に**社会の形成に参画**、持続的**社会の発展**に寄与
- ・「**主体的・対話的で深い学び**」の視点からの授業改善、**大学教育の質保証**
- ・探究・STEAM教育、文理横断・文理融合教育等を推進
- ・グローバル化の中で**留学等国際交流**や**大学等国際化**、**外国語教育の充実**、**SDGsの実現**に貢献するESD等を推進
- ・**リカレント教育**を通じた高度人材育成

誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

- ・子供が抱える**困難が多様化・複雑化**する中で、個別最適・協働的学びの**一体的充実**による多様な教育ニーズへの対応
- ・支援を必要とする子供の**長所・強みに着目**する視点の重視、**地域社会の国際化**への対応、**多様性、公平・公正、包摂性**（DE&I）ある**共生社会の実現**に向けた教育を推進
- ・組織の境界を越えた**学び合い**、**風通しの良い組織形成**を重視し、**同調圧力への偏りから脱却**

人生100年時代に**複線化する生涯**にわたって**学び続ける**学習者

地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

- ・**持続的な地域コミュニティの基盤形成**に向けて、**公民館等の社会教育施設の機能強化**や**社会教育人材の養成**と**活躍機会の拡充**
- ・**コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進**、**家庭教育支援の充実**による**学校・家庭・地域の連携強化**
- ・**生涯学習**を通じた自己実現、**地域や社会への貢献**等により、**当事者として地域社会の担い手**となる

教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

**DXに至る3段階**（電子化→最適化→新たな価値(DX)）において、当面第3段階を見据え、**第1段階から第2段階への移行**を着実に推進

GIGAスクール構想、**情報活用能力の育成**、**校務DX**を通じた働き方改革、**教師のICT活用**指導力の向上等、**DX人材の育成**等を推進

教育データの標準化、**基盤的ツール**の開発・活用、**教育データの分析・利活用**の推進

デジタルの活用と併せてリアル（対面）活動も不可欠、**学習場面**等に応じた最適な組合せ

計画の実効性確保のための基盤整備・対話

**指導体制・ICT環境**等の整備、**学校における働き方改革**の更なる推進、**経済的・地理的状況によらない学び**の確保

**NPO・企業等多様な担い手**との連携・協働、**安全・安心**で質の高い**教育研究環境**等の整備、**児童生徒等の安全確保**

**各関係団体・関係者（子供を含む）**との対話を通じた**計画の策定**等

# OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤） 2030

OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030は、OECD Future of Education and Skills 2030プロジェクト※の成果であり、教育の未来に向けての望ましい未来像を描いた、進化し続ける学習の枠組みです。教育の幅広い目標を支えるとともに、**個人のウェルビーイングと集団のウェルビーイングに向けた方向性**を示しています。

※2011年にOECDと日本で開始した「OECD東北スクール」事業を多国間の枠組みに発展させ、2030年以降の未来を形作るため生徒に求められるコンピテンシーを明確化するとともに、このコンピテンシーを育む教師の資質や教育環境等を検討することを目的としたOECDの事業。

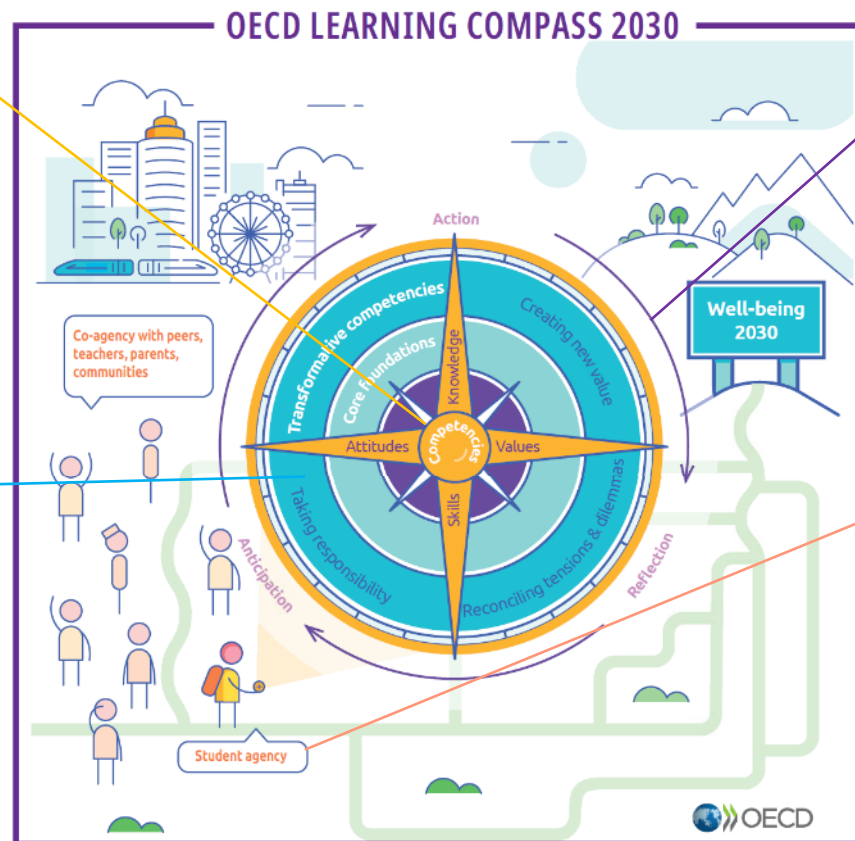
その構成要素には、学びの中核的な基盤、知識、スキル、態度と価値、より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシーや、見通し(Anticipation)・行動(Action)・振り返り(Reflection)のAARサイクルが含まれます。また、ラーニング・コンパスは、生徒が周囲の人々、事象、状況をより良いものにするを学ぶ上で、責任ある有意義な行動を取るための方向性を決めるために生徒が使うことができるツールであることから、生徒エージェンシーは、ラーニングコンパスの中心的概念です。

## 学びの中核的基盤

カリキュラム全体を通して学習するために必要となる基礎的な条件や主要な知識、スキル、態度及び価値観を指します。

## より良い未来の創造に向けた変革を起こすコンピテンシー

新たな価値を創造する力、責任ある行動をとる力、対立やジレンマに対処する力は未来を形づくり、そこで活躍するための必要な能力です。



## 見通し・行動・振り返りサイクル

学習者が継続的に自らの思考を改善し、集団のウェルビーイングに向かって意図的に、また責任を持って行動するための反復的な学習プロセスです。

## 生徒エージェンシー

生徒が教師の決まりきった指導や指示をそのまま受け入れるのではなく、未知なる環境の中で自立で歩みを進め、意味のある、また責任感を伴う方法で進むべき方法を見出す必要性が強調されています。

## OECDのウェルビーイング指標

OECD「How's Life Measuring Well-being」(ヘッドライン指標)	
所得と資産	家計の調整純可処分所得 家計の純金融資産
仕事と報酬	就業率(15~64歳人口に占める就業者の割合) フルタイム雇用者の平均年間報酬 失業可能性(年間失業流入率) 長期失業率(労働力人口に占める1年以上の失業者の割合)
ワーク・ライフ・バランス	長時間労働(日常的に週50時間以上働く雇用者の割合) レジャーとパーソナルケアの時間(フルタイム就業者が1日に費やす時間)
住居	1人当たり部屋数 住居費(可処分所得に占める住宅の取得・維持に関する費用) 基本的な衛生設備の欠如(世帯専用の屋内水洗トイレのない住宅に住む割合)
環境の質	水質に他する満足度 大気中のPM2.5への年間曝露量(1m <sup>3</sup> 当たりμg数)
健康状態	出生時平均余命 主観的健康状態
教育と技能	学歴(25~64歳における後期中等教育以上の修了者割合) PISAの平均スコア PIAACの平均習熟度
市民参加とガバナンス	投票率
社会とのつながり	社会的ネットワークによる支援(いざというときに頼りになる身内や友人がいると回答した人の割合)
生活の安全	暴行死率(人口10万人当たり) 自己報告による暴行被害率
主観的幸福	生活満足度

OECD「How's Life Measuring Well-being」 (子どもの幸福を構成する側面と指標)	
子どもが生活する家庭の幸福条件(物質的側面、家庭環境)	
所得と資産	子どものいる世帯の可処分所得 子どもの所得貧困
仕事と報酬	就業者がいない世帯の子ども 親が長期失業者である子ども
住居	子どもの1人当たりの平均部屋数 基本的な衛生設備を欠く住居に暮らす子ども
環境の質	環境条件が劣悪な住居に暮らす子ども
子どもに特有の幸福条件(子ども主体の幸福因子)	
健康状態	乳児の死亡率 低出生体重児率 自己報告による健康状態 過体重と肥満 青少年の自殺率 十代の出産率
教育と技能	PISA読解テストの平均得点 PISA創造的問題解決テストの得点 就労、就学、職業訓練のいずれも行っていない若者 教育的はく奪
市民参加	投票の意思 市民活動への参加
社会と家庭の環境	親とよく話す生徒 友人が親切な生徒 学校の勉強を負担に感じる生徒 学校が好きな生徒 PISAの帰属意識指数 親と過ごす時間
生活の安全	子どもの殺人率 いじめ
主観的幸福	生活満足度

【OECD「How's Life Measuring Well-being」(幸福度白書)における指標の選択基準】①表面的妥当性をもつこと、②成果を対象とすること、③変化に敏感であり政策介入に対する感度が高いこと、④関連文献で一般に用いられ認められていること、⑤各国間の比較が可能であり、多くの国を網羅していること、⑥適切な頻度とタイミングで収集されること

(OECD幸福度白書2015に基づいて文部科学省作成)



# OECD Child Well-being Dashboard 日本の状況

## ○OECD Children's Well-being Dashboardの指標と結果

指標分野	指標	日本の結果
物質的な状況	家庭にインターネット環境がない子どもの割合	中
身体的な健康状況	乳幼児の死亡率	高
認知的・教育状況	10歳程度の子どもの数学・科学のトップ学力層の割合	高
	15歳程度の子どもの読解力・数学・科学のトップ学力層の割合	高
	高等教育を修了することを希望する子どもの割合	中
	子ども・若者のうち二つの割合	高
社会・情緒的な発達の状況	①自己有用感がある子どもの割合	低
	②成長意欲がある子どもの割合	高
	③人生に意義や目的を感じている子どもの割合	低
	④全体として人生に満足していると感じている子どもの割合	低

※高は「OECD平均よりも良い」、低は「OECD平均よりも悪い」、中は「OECD平均程度」

## ○社会・情緒的な発達の状況についてのPISA生徒紙の質問項目

指標	質問項目
①自己有用感がある子どもの割合 (低)	困難に直面したとき、たいてい解決策を見つけることができる
②成長意欲がある子どもの割合 (高)	自分の知能は、自分ではほとんど変えることができないものである
③人生に意義や目的を感じている子どもの割合 (低)	自分の人生には明確な意義や目的がある
④全体として人生に満足していると感じている子どもの割合 (低)	全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか

※①③は「その通りだ」「全くその通りだ」と回答した割合。②は「その通りでない」「全くその通りでない」と回答した割合。④は「0（全く満足していない）～10（十分に満足している）」の回答結果。

# ウェルビーイングとは何か

ウェルビーイングとは何か：  
今なぜウェルビーイングが必要なのか？

- Well-being: 新しい「ものさし」・コンセプト

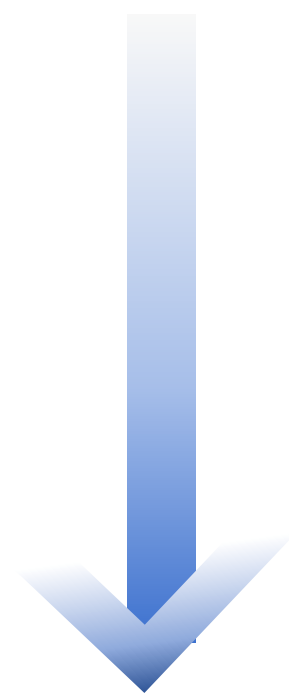
経済だけではなく「こころ」の充足、生活への評価・感情・価値、健康まで含めてとらえる

- 自分の生きる道だけではなく、家族や友人、自分の住む街・国が、どのようにすれば「良い状態」でいられるのかについて考えること
- 「幸せ」とウェルビーイングの違い：
  - happiness = より短期的で個人的な状況評価・感情状態
  - Well-being = より**包括的**で、個人のみならず**個人をとりまく「場」**が**持続的に**よい状態であること

# ウェルビーイングの深化

- 今が楽しい  
（個人・現在）
- これからの将来に希望を持てる  
（個人・将来展望）
- クラスや地域の人々の幸せを願う  
（社会・共生）
- この町・学校・世界を良くしていきたい  
（利他性・公共・持続）

ウェルビーイングの  
深化



# ウェルビーイングを考える際の注意点

1. 意味の問題（よくある誤解）：生きがい・人生の意義（ユーダイモニア） > 快楽（ヘドニア）
2. 意味は国や地域の文化により異なる
  - それぞれの国・集団・地域での文化的価値につながる「ウェルビーイング」のあり方を考える必要がある
  - 世界ランキングではなく、学校や教育現場の状況を知ることが大切
3. 多様なウェルビーイングの求め方を認める





## 日本的幸福

- 幸福の「陰と陽」
- 他者とのバランス
- 人並み志向
- まわりまわって自分にも幸せがやってくるという信念

## 協調的幸福観

## 北米的幸福

- 個人の自由と選択
- 自己価値の実現と自尊心
- 競争の中でもまれる
- それらが翻って社会を豊かにするという信念

## 獲得的幸福観



## 協調系幸福

- 自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う
- 大切な人を幸せにしていると思う
- 平凡だが安定した日々を過ごしている

全くそう思わない = 1点      とてもそう思う = 5点

協調的幸福  
(Hitokoto & Uchida, 2015)

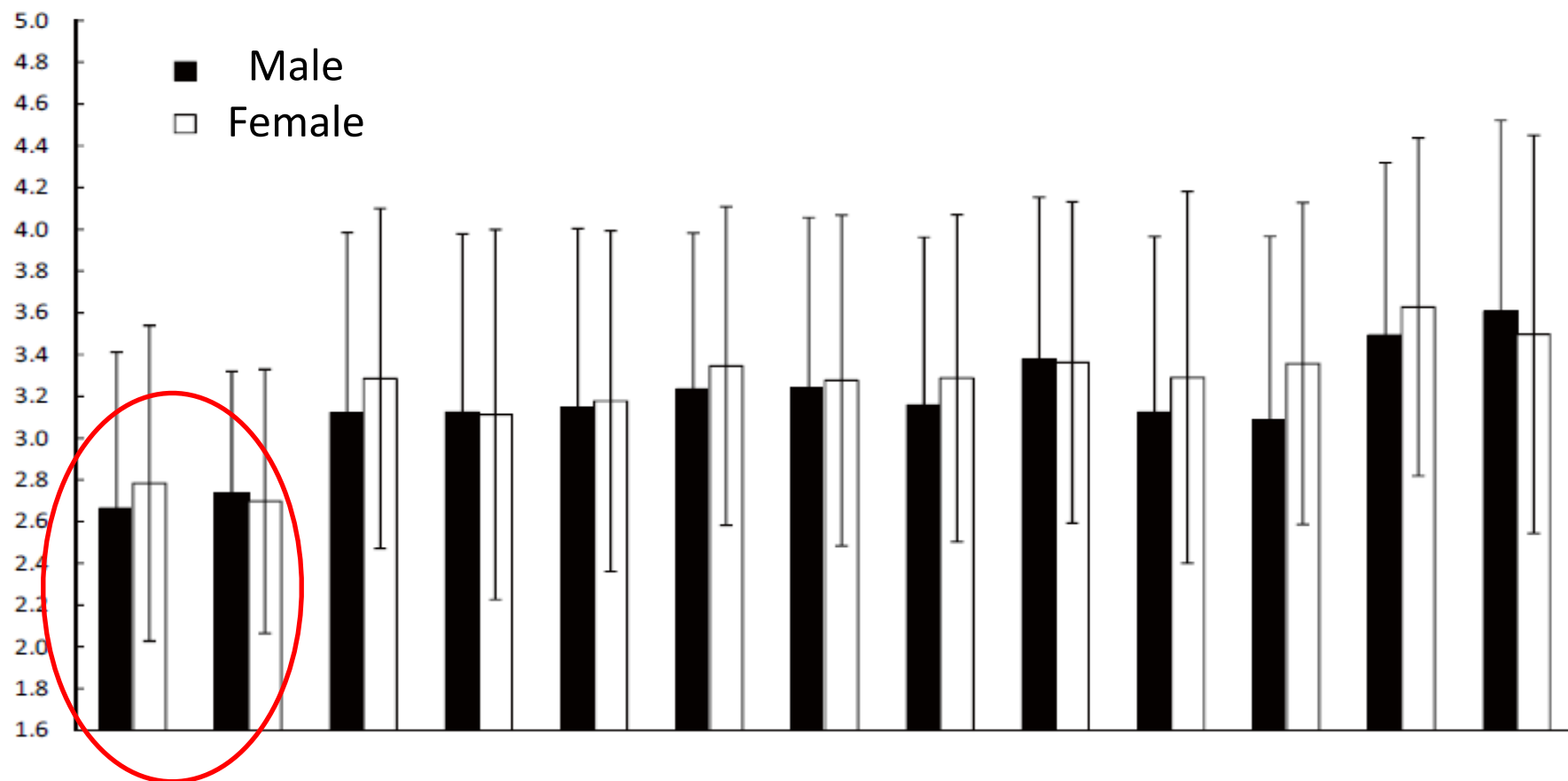
## 獲得系幸福

- 私の人生は、とてもすばらしい状態だ。
- 大体において、私の人生は理想に近いものである。
- これまで私は望んだものは手に入れてきた。

人生の満足感尺度  
(Diener et al., 1985)

# 人生の満足感尺度

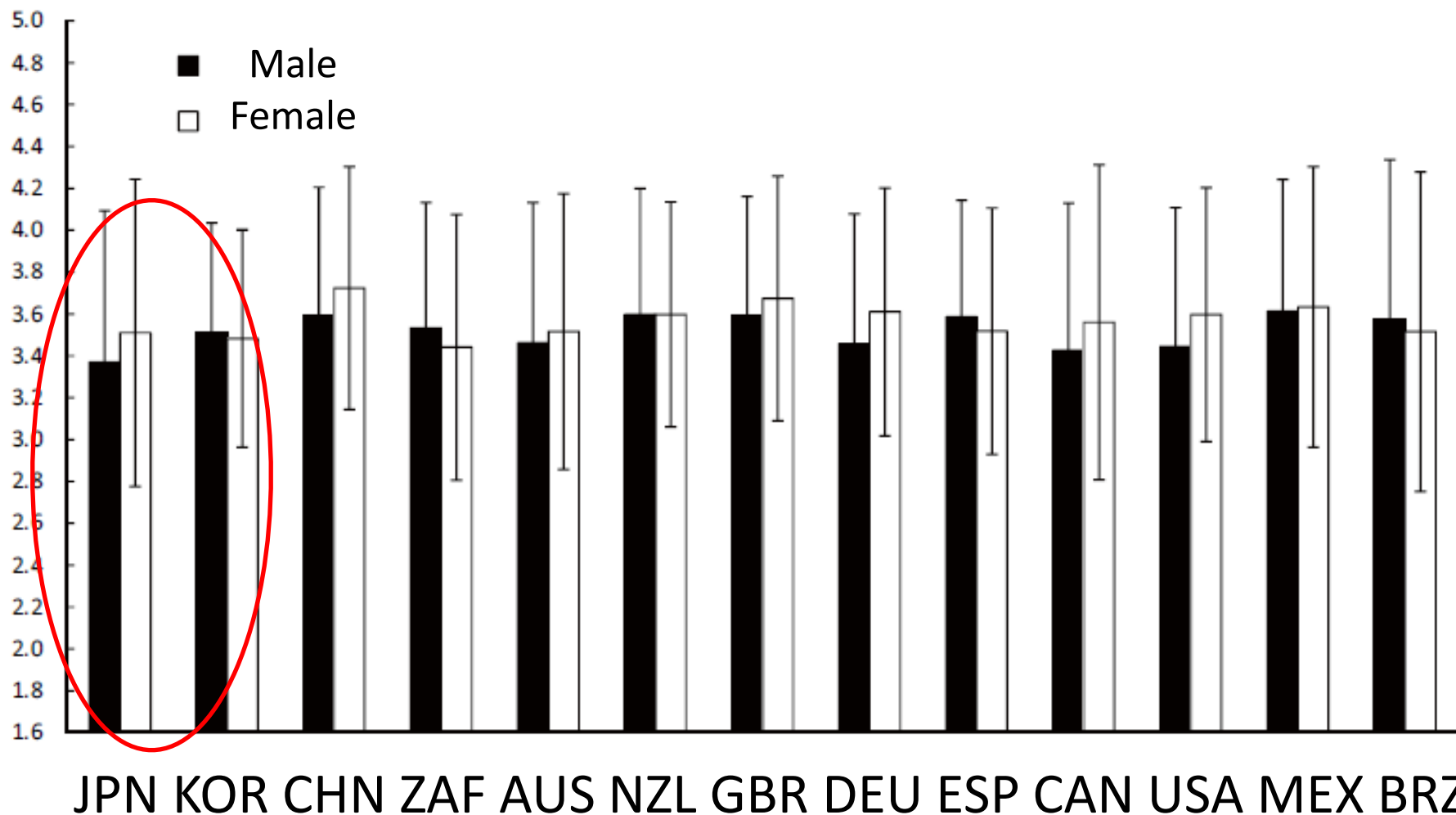
日本・韓国は人生満足度尺度の得点が低い



JPN KOR CHN ZAF AUS NZL GBR DEU ESP CAN USA MEX BRZ

# 協調的幸福

協調的幸福感尺度を使うと平均値がだいたい同じ



# 協調的幸福感が世界でも取り入れられる！



WHR 2022 | CHAPTER 6

## Insights from the first global survey of balance and harmony

### Tim Lomas

Psychology Research Scientist, Harvard T. H. Chan School of Public Health & Human Flourishing Program at Harvard University

### Alden Yuanhong Lai

Assistant Professor of Public Health Policy and Management, New York University

### Koichiro Shiba

Postdoctoral Research Fellow, Harvard T. H. Chan School of Public Health & Human Flourishing Program at Harvard University

### Pablo Diego-Rosell

Senior Researcher, The Gallup Organization

### Yukiko Uchida

Professor, Kyoto University

### Tyler J VanderWeele

John L. Loeb and Frances Lehman Loeb Professor of Epidemiology, Harvard T. H. Chan School of Public Health & Director, Human Flourishing Program at Harvard University

Acknowledgment: We are grateful above all to the founding members of the Global Wellbeing Initiative (GWI) – including Dominique Chen, Ed Diener, Jim Harter, Yoshiki Ishikawa, Mohsen Joshanloo, Takafumi Kawakami, Takuya Kitagawa, Louise Lambert, Hiroaki Miyata, Holli Anne Passmore, and Maroot van de Weijer – whose work includes the research featured in this



〈写真右上から、右回り〉  
ハーバード大学 研究員  
サイモンフレイザー大学 特任准教授/  
World Happiness Report 共同編集者  
京都大学 こころの未来研究センター 教授  
〈モデレーター〉  
ニューヨーク大学  
School of Global Public Health 助教授

**ティム・ローマス氏**  
**アラ・アクニン氏**  
**内田 由紀子氏**  
**アルデン・ライ氏**

**討論**

ライ「世界幸福度報告に新たに取り入れられた「バランス」と「ハーモニー」(調和)という概念は私たちの幸福にとってどんな意味を持つか。

ローマス 幸福の原則だと考えている。食事、運動、健康、仕事、人間関係など「バランス」は幸福のほほえての側面に関わる。バランスとは安定を落ちつき、調和はそこをホジティブな精進があることを意味する。

内田 持続可能なような新しいパラダイムや、コロナ禍において他者のことを思うといった考え方に通じるもの。

アクニン キヤラ社の調査では、見知らぬ人への手助け、慈善事業への寄付、ボランティア活動などの社会貢献のレベルが、昨年から大幅に上昇している。世界的なパンデミックが起きているなか、世界中

**世界は「寛大さ」に注目**





# 日本における二つの自己意識

日本における二つの自己意識の良いバランスの模索  
→ 日本的well-beingを考える



「独立性」

公平なシステム  
多様な生き方を認める  
色々な人とつながる  
新しい機会を得る  
同調圧力からの解放

「協調性」

人と協調する  
他者の幸せを考える

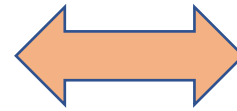


# 教育とウェルビーイングの概念整理（試案）

教育を通して得られるWell-being

生徒のWell-being

場（学校）のWell-being  
（多様な構成員による理解）



スキル・思考力

レジリエンス・挑戦

多様な経験と主体性

社会貢献力

尊重・倫理・道徳観

多様なつながりと協働

心身の健康と幸福感

自己実現と自己受容

物理的・心理的安全

創造性の育成

多様性と開放性

つながりと信頼の基盤

格差の是正

制度と規範

周辺環境

教育制度・教育現場・学級

家族要因

地域要因

# 生徒のウェルビーイングの構成要素（例）

## 生徒のWell-being

主観的幸福感  
— 現在・将来・周囲  
のウェルビーイング

学校生活が楽しい（今の幸せ）  
心身が健康である（今の幸せ）  
日常生活に不安や心配事がない（今の幸せ）  
大切な人を幸せにしたり、楽しませていると思う（自分+周囲）  
自分は将来幸せに暮らしていると思う（将来の幸せ）  
食事や睡眠が十分である

自己実現と自己受容

自分には良いところがあると思う  
自分のことが好きである  
勉強が理解できたとき、喜びを感じる  
部活動や委員会活動にやる気が出る  
得意なことが伸ばせる環境だと思う  
苦手なことにチャレンジできる環境だと思う  
# 勉強する意味が見出せない

多様なつながりと  
協働・向社会性

相談できる大人がいる  
先生のことを好きだ  
家で学校の話をしている  
友人関係に満足している  
クラスの居心地が良い  
学校や地域、社会などで、人の役に立つことをしてみたい

安心・安全な環境

通学路は安全であり、安心して学校に通える  
校舎や設備が快適・清潔であり、満足している

# 学校（教員）のウェルビーイングの構成要素（例）

## 学校のWell-being

主観的幸福感  
— 現在・将来・周囲  
のウェルビーイング

学校の仕事が楽しい（今の幸せ）  
心身が健康である（今の幸せ）  
日常生活に不安や心配事がない（今の幸せ）  
大切な人を幸せにしたり、楽しませていると思う（自分+周囲）  
自分は将来幸せに暮らしていると思う（将来の幸せ）  
食事や睡眠が十分である

自己実現と自己受容

自分にはいろいろな良いところがあると思う  
自分のことを好ましく感じる  
教育に意欲を感じる  
子供の成長を実感する  
指導方法や内容を学ぶ機会が提供されている

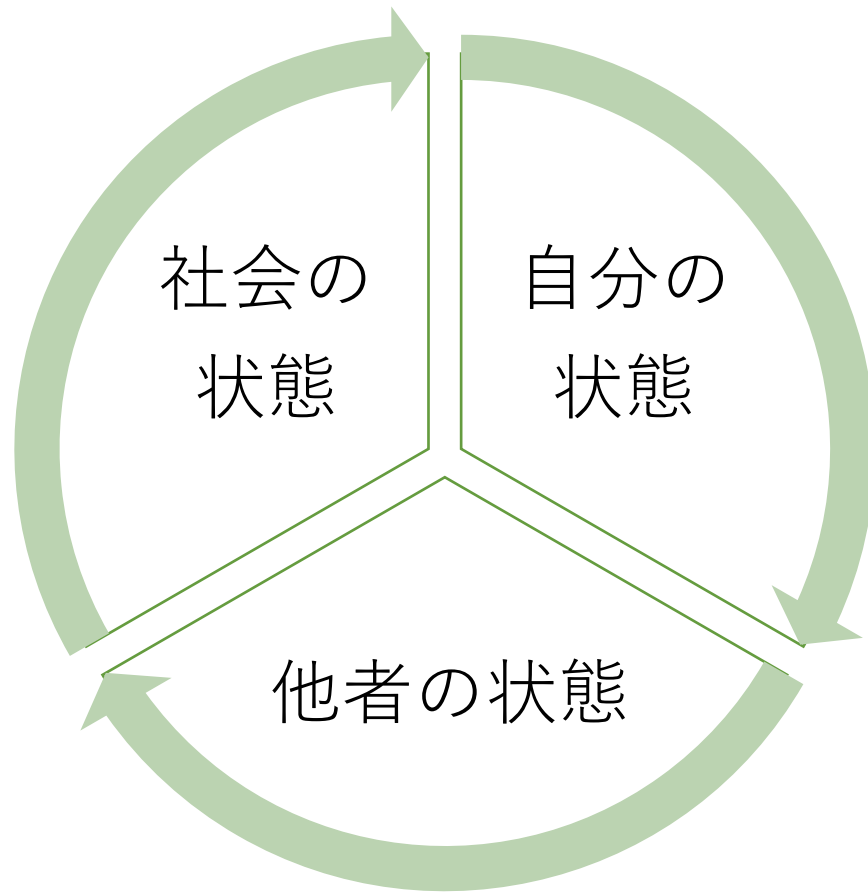
多様なつながりと  
協働・向社会性

相談できる人がいる  
職場の居心地が良い  
生徒との信頼関係がある  
卒業生とのつながりがある  
保護者や地域との信頼関係がある

安心・安全な環境

通学路は安全であり、生徒が安心して学校に通える  
校舎や設備が快適・清潔であり、生徒が満足できる環境である

# ウェルビーイングの循環



互いの幸せな状態  
「ウェルビーイング」  
を循環させる



好循環を支える要因

多様性  
開放性  
社会的つながり（社会関係資本）  
自立と共生を支える仕組み





# 自分と他者の現在と未来の幸せを包摂する 持続可能な幸せ(ウェルビーイング)をつくる学びへ

第4回教育振興基本計画部会  
岩本委員御提出資料より

Education for Sustainable Development → Education for Sustainable Well-being → Learning for Sustainable Well-being

持続可能な幸せ

自分 ↔ 他者

現在 ↔ 未来



# 持続可能な幸せ(Well-being)をつくる教育とは ‘Education for Sustainable Well-being’

第4回教育振興基本計画部会  
岩本委員御提出資料より

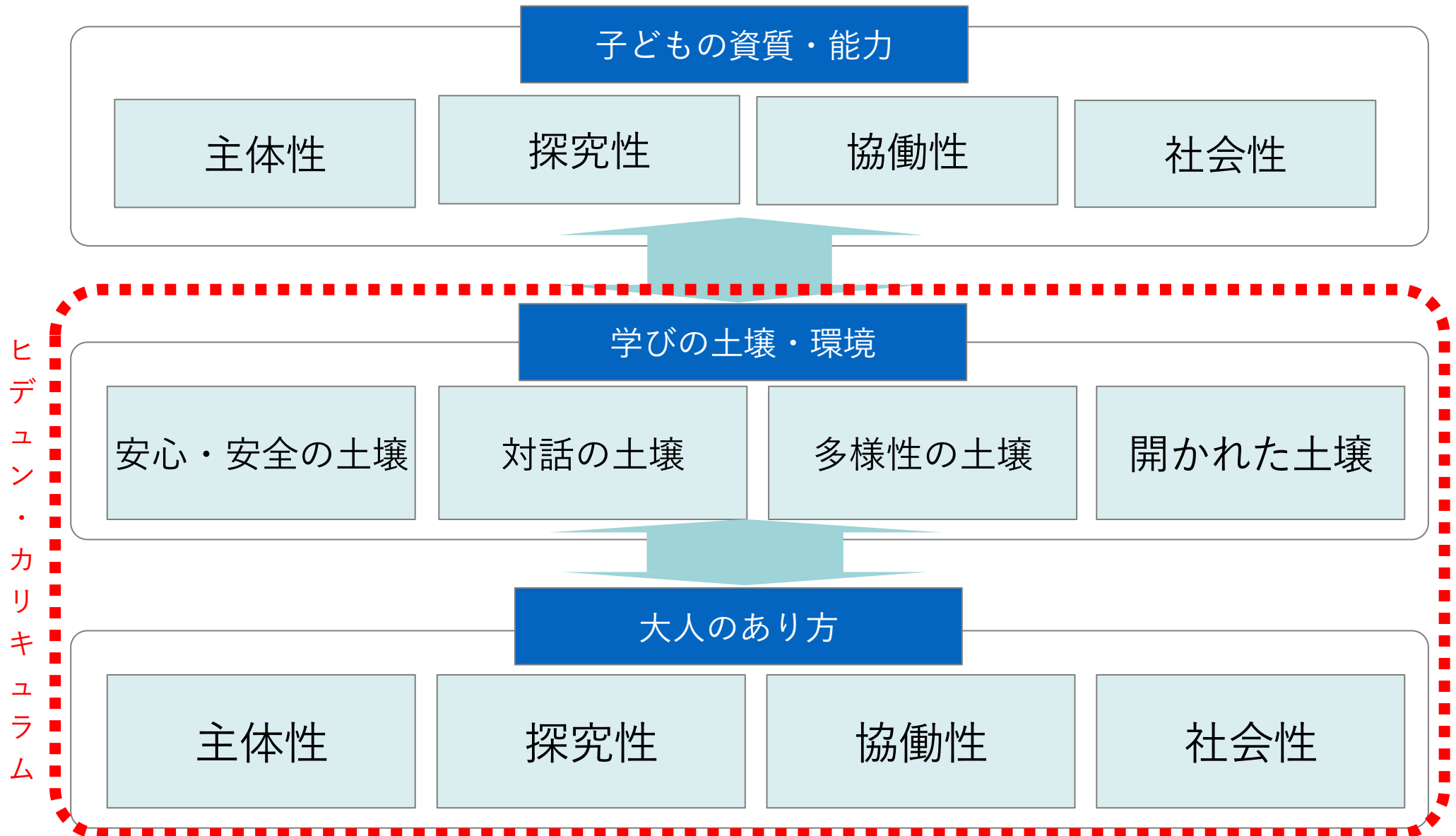
教育の目的・目標と子どもの身につける資質・能力が  
Well-beingをつくるためのものである

教育の課程・過程と環境・土壌（場・関係性・機会）が  
Well-beingを保障するものである

教育に関わる大人（教職員等）が  
Well-beingを持続できている

ウェルビーイングに向けて子どもたちの資質・能力を育むためには  
明示的な教育課程だけでなく、ヒデュンカリキュラム（学びの土壌等）も含めた  
深いカリキュラム・マネジメントが重要

第4回教育振興基本計画部会  
岩本委員御提出資料より



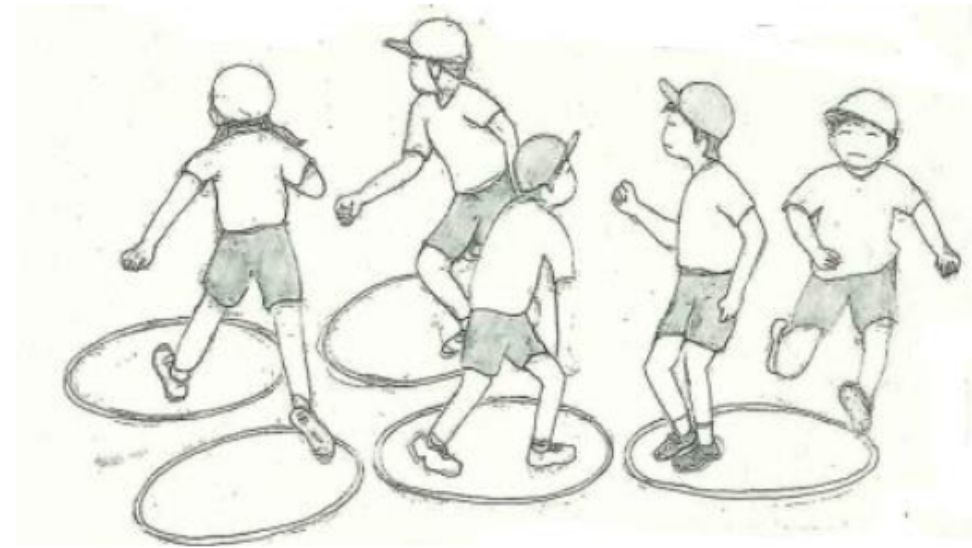
※高校魅力化評価システムの分析により「学びの土壌」が豊かな学校ほど、生徒の資質・能力を高めるという関係性が見られた。  
また、経年分析によって「学びの土壌」の豊かさが高まるほど、生徒の資質・能力も高まるという分析結果も得られた。

## なぜwell-beingに注目しているのか？

- ・ インクルーシブ教育と親和性が高いこと
  - ⇒ 障害のある子ども、障害のない子どもがともに地域の学校で学び、一人ひとりへの合理的な配慮の積み重ねが一人ひとりの多様な幸せにつながると共に学校全体、学校を中心とする地域全体の幸せにつながっていく
- ・ 良好な生活科・総合ベースのカリキュラムが求められること
  - ⇒ 体験から自ら考え、行動し、新たな価値を創造していく力を獲得する開かれた学習の過程で子どもはwell-beingを実感している

# ウェルビーイングを目指す 学校経営で大切にしていること

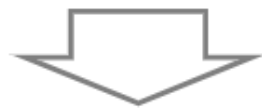
- ①学校評価システムの構築
- ②学校の強み・人材を生かした教育課程の編成改善
- ③児童指導・教育相談体制の確立
- ④特別支援教育の柱のある学校運営





## 小学校でのwell-beingの目標

- ・ 子ども一人ひとりが幸福や生きがいを感じ取れるカリキュラム、教育環境、人的なネットワークを整備すること
- ・ 子ども一人ひとりの幸福や生きがいが学級・学年・教室・学校全体の生きがいにつながり、家庭や地域社会に広がっていく



子ども一人ひとりのwell-beingの向上は、学校や学区のwell-beingの醸成でもあり、その広がりが多様な個人を支える

## Ⅱ. 今後の教育政策に関する基本的な方針

（日本社会に根差したウェルビーイングの向上・日本発の概念整理）

- ウェルビーイングとは身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義など将来にわたる持続的な幸福を含むものである。また、個人のみならず、個人を取り巻く場や地域、社会が持続的に良い状態であることを含む包括的な概念である。
- ウェルビーイングの捉え方は国や地域の文化的・社会的背景により異なりうるものであり、一人一人の置かれた状況によっても多様なウェルビーイングの求め方がありうる。
- すなわち、ウェルビーイングの実現とは、多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなることであり、教育を通じて日本社会に根差したウェルビーイングの向上を図っていくことが求められる。
- ウェルビーイングの国際的な比較調査においては、自尊感情や自己効力感が高いことが人生の幸福をもたらすとの考え方が強調されているが、これは獲得的な幸福を重視する欧米的な文化的価値観に基づくものであり、同調査によると日本を含むアジアの文化圏の子供や成人のウェルビーイングは低いとの傾向が報告されることがある。しかし、我が国においては人とのつながりや思いやり、利他性、社会貢献意識などを重視する協調的な幸福感がウェルビーイングにとって重要な意味を有しており、獲得的幸福と協調的幸福とのバランスを取り入れた日本発のウェルビーイングの実現を目指すことが求められる。こうした調和と協調(Balance and Harmony)に基づくウェルビーイングの考え方は世界的にも取り入れられつつあり、我が国から国際的に発信していくことも重要である。
- 日本社会に根差したウェルビーイングの要素としては、「幸福感(現在と将来、自分と周りの他者)」、「学校や地域でのつながり」、「協働性」、「利他性」、「多様性への理解」、「サポートを受けられる環境」、「社会貢献意識」、「自己肯定感」、「自己実現」、「心身の健康」、「安全・安心な環境」などが挙げられる。これらを教育を通じて向上させていくことが重要であり、その結果として特に子供たちの主観的な認識が変化したかについてエビデンスを収集していくことが求められる。なお、協調的幸福については、組織への帰属を前提とした閉じた協調ではなく、共創するための基盤としての協調という考え方が重要であるとともに、物事を前向きにとらえていく姿勢も重要である。

- ウェルビーイングと学力は対立的に捉えるのではなく、個人のウェルビーイングを支える要素として学力や学習環境、家庭環境、地域とのつながりなどがあり、それらの環境整備のための施策を講じていくという視点が重要である。また、社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重要である。さらに、組織や社会を優先して個人のウェルビーイングを犠牲にするのではなく、個人の幸せがまず尊重されるという前提に立つことが必要である。
- 子供たちのウェルビーイングを高めるためには、教師のウェルビーイングを確保することが必要であり、学校が教師のウェルビーイングを高める場となることが重要である。子供の成長実感や保護者や地域との信頼関係があり、職場の心理的安全性が保たれ、労働環境などが良い状態であることなどが求められる。このことが学びの土壌や環境を良い状態に保ち、学習者のウェルビーイングを向上する基盤となり、結果として家庭や地域のウェルビーイングにもつながるものとなる。
- さらに、生涯学習・社会教育を通じて地域コミュニティを基盤としてウェルビーイングを実現していく視点も大切である。
- また、社会全体のウェルビーイングの実現に向けては、個人のウェルビーイングが様々な場において高められ、個人の集合としての場や組織のウェルビーイングが高い状態が実現され、そうした場や組織が社会全体に増えていくことが必要となる。子供たち一人一人が幸福や生きがいを感じられる学びを保護者や地域の人々とともにつくっていくことで、学校に携わる人々のウェルビーイングが高まり、その広がりが一人一人の子供や地域を支え、さらには世代を超えて循環していくという在り方が求められる。
- なお、第2期教育振興基本計画において掲げられるとともに、第3期教育振興基本計画においてもその理念が継承された「自立」、「協働」、「創造」については、「自立」と「協働」は個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実に対応する方向性であり、「創造」は主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を通じてもたらされるものである。これまでの計画の基軸を発展的に継承し、誰もが地域や社会とのつながりや国際的なつながりを持つことができるような教育を推進することで、個人と社会のウェルビーイングの実現を目指すことが重要である。

## IV. 今後5年間の教育政策の目標と基本施策

### 目標2 豊かな心の育成

子供たちの豊かな情操や道徳心を培い、正義感、責任感、自他の生命の尊重、他者への思いやり、自己肯定感、人間関係を築く力、社会性などを育み、子供の最善の利益の実現と主観的ウェルビーイングの向上を図るとともに人格形成の根幹及び民主的な国家・社会の持続的発展の基盤を育む。

#### 【基本施策】

#### ○主観的ウェルビーイングの向上

- ・日本社会に根差したウェルビーイングの概念整理を踏まえた上で、幸福感や自己肯定感、他者とのつながりなどの主観的なウェルビーイングの状況を把握し、学校教育活動全体を通じて子供たちのウェルビーイングの向上を図る。

#### 【指標候補】

- ・主観的ウェルビーイングに関する指標の向上

#### （指標例）

- 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合の増加
- 将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合の増加（再掲）
- ほか、幸福感や友人関係の満足度等に関する指標を設定